

ザンビア共和国
エイズおよび結核対策プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成17年11月
(2005年)

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部

目 次

序 文
地 図
写 真
略語表

評価調査結果要約表

第 1 章 終了時評価調査の概要	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	1
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	3
第 2 章 終了時評価の方法	5
2 - 1 評価の概要	5
2 - 2 PDMの変遷	5
2 - 3 評価のデザイン	6
2 - 4 評価の基準	8
第 3 章 プロジェクトの実績と現状	9
3 - 1 投 入	9
3 - 2 活動の実績	9
3 - 3 アウトプットの実績	15
3 - 4 プロジェクト目標達成の見込み	19
3 - 5 実施プロセス	20
3 - 5 - 1 活動の進捗状況	20
3 - 5 - 2 モニタリングシステム	21
3 - 5 - 3 専門家とC/Pの関係	21
3 - 5 - 4 オーナーシップ	21
3 - 5 - 5 他支援団体との関係	21
第 4 章 評価結果	
4 - 1 評価結果の総括	23
4 - 2 HIV/エイズ分野	23
4 - 3 結核分野	24
4 - 4 評価 5 項目による分析	25
4 - 4 - 1 妥当性	25

4 - 4 - 2	有効性	25
4 - 4 - 3	効率性	26
4 - 4 - 4	インパクト	27
4 - 4 - 5	自立発展性	28
第5章	提言と教訓	29
5 - 1	提言	29
5 - 2	教訓	29
付属資料		
1	ミニッツ	33
2	合同評価報告書	34
3	評価グリッド	68
4	PDM	71
5	質問表集計結果	74
6	収集文献・資料一覧	79

序 文

ザンビア共和国では、HIV感染の拡大により、健康被害の増加のみならず青年層人口の喪失や平均余命の低下を招き、社会・経済開発の発展が妨げられているといわれている。また主要な日和見感染症である結核の急増をも来しており、感染症のなかでも特にHIV/エイズ及び結核対策が重要な課題であると認識されている。

このため同国政府は、過去十数年にわたるザンビア大学教育病院（University Teaching Hospital：UTH）に対する技術協力を経て、UTH内のウィルス検査室・結核検査室の能力向上及び地方レベルの検査能力の向上を目的としたプロジェクト方式技術協力を我が国に対し要請してきた。これを受けてJICAは、2001年3月より「エイズおよび結核対策プロジェクト」を開始した。

その後の運営指導調査において、検査システムが強化され有効に活用されることを通じ、ザンビア共和国における効果的なHIV/エイズ対策及び結核対策の推進により寄与することを目的として、協力内容を見直した。その後の中間評価調査においても、更に人々への貢献を意識して協力内容の再検討を行い、以後プロジェクトを実施してきたところであり、両国関係者の協力により、概ね順調に進捗してきたといえる。

今般、同プロジェクトの終了時評価を行うことを目的として、2005年10月に調査団を派遣し、関係機関との間でプロジェクトの進捗の確認と今後の方向性に係る協議を行った。本報告書は、同調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開に、更には類似のプロジェクトに活用されることを願うものである。

ここに、本調査にご協力をいただいた内外関係者の方々に深い謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成17年11月

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部
部長 末森 満



UTH正面



評価ワークショップ
(2005年10月20日)



保健省表敬 (10月25日)



CBTO(オペレーショナル・リサーチのサイト)視察(10月25日)



CBTOの受付(10月25日)



CBTOで結核とエイズ治療を受けた患者宅の訪問(10月25日)